

# 北陸石仏の会々報

## 東猪谷「三寶荒神」の石仏と日本石仏協会

平井一雄

富山県富山市東猪谷の高木健一宅の尊名不詳石仏は「三寶荒神」（小島荒神）と判明しました。『佛像圖彙』にこれとそっくりの図像がありました。写真1、

図1  
図像の注釈文「小島荒神也悪人ヲ治懣ツ故■乱荒神又衛護三寶ヲ故号ス三寶荒神ト」。

『日本の石仏第七八号』一九九六夏発行「創立二十周年記念号」に私は日本石仏協会とのかかわりについて投稿し、その中高木宅の尊名不詳の石仏を紹介しています。写真3、4

この会報で私の五十年近くになる石仏とのふれあいを一部割愛して報告します。今も『日本の石仏第一五四号』二〇一五夏までとぎれなく二十年会員を続けています。

別図の「三寶荒神」は三面馬頭観音に似ていて混同されているものもあるようです。

注釈文「三寶トハ佛法僧護持ス三寶荒神魄神」 図2、写真2

「日本石仏協会と私」平井一雄 写真3、4

日本石仏協会の設立された一九七七年（昭和五十二年）の八年前頃から私は

### 第48号

平成27年9月1日発行

編集と発行

## 北陸石仏の会

(日本石仏協会北陸支部)

代表 平井一雄

〒939-1315

富山県砺波市太田

1770 尾田武雄方

電話 0763-32-2772

振替 00740-2-11974

(年会費 3000円)

- ・東猪谷の三寶荒神
- ・朝日町境西墓地の石仏
- ・白山天眞院の石仏
- ・白峰の白山下山仏
- ・上滝不動尊
- ・第51回例会案内

郷土史に興味を持ち、手始めに旧街道に残る野仏の分類、銘文記録を数人の仲間と共に始めました。

石仏関係の参考書をさがして求めたのが木耳社の本でした。この本についていたアンケート葉書を出したのがきっかけで日本石仏協会の勧誘の手紙が届きました。

当初の年会費三千円を振込みました。石仏の魅力にとりつかれた私は創刊号から一九九五年冬七六号までとぎれなく、会員であり読者として今日まで全国の同好の諸氏と『日本の石仏』誌上で交友を続けています。初年度の会費振込により「会員証」が会長 大護八郎氏より届いています。大護先生に初めてお目にかかったのは昭和五十五年（一九八〇）日本石仏協会旅行「佐渡の石仏巡り」のときだったかと思えます。

富山県の参加者は私と国元惣一郎さんでした。国元さんは富山県内の水天像など珍しい石仏の写真をたくさん持っておられ地元婦中町の公民館で写真展を開かれたことがありました。

次に大護先生にお目にかかったのは一九八〇年（昭和五十五年）の第二十三回日本石仏協会旅行「富山の石仏めぐり」のときです。加藤孝雄さんと若林栄一さんが飛騨路の道祖神調査と協会旅行の事前調査にこられ詳細な石仏分布地図を作られました。

七月二十五日「富山の石仏めぐり」一日目の「飛騨街道の道祖神その他」探訪のときに私は大沢野町舟渡、東猪谷の石仏を案内しました。

写真①は、ベレー帽の大護先生が通称「庄の金比羅」といわれている祠堂

の調査中のところ。葛草をまとった木製の祠堂は今ではコンクリートのお堂にかわっています。

写真②は旅行の参加者に紹介しました尊名不詳の石仏です。異形弘法大師像だという人もいますが私は密教系の仏さんだと思いきや資料を見ているが未だに謎の石仏です。高木健一宅の屋敷内にありますが屋敷神ではないといわれています。

写真③は東猪谷南端(カミンムケ)の道祖神、大日如来石仏群です。この日はここまで案内して引き返し立山下の芦峯寺「風土記の丘」石仏群に向かいました。この後の講師は前協会理事の京田良志先生でした。二日目は立山室堂、地獄谷石仏群、三日目は大岩山日石寺、呉羽長慶寺五百羅漢、高岡瑞竜寺二十五菩薩の日程です。写真③左端の洋梨型双体道祖神は昭和五十九年秋頃盗難に会い今はありません。

この東猪谷周辺(越中東街道)には大日如来石仏がたくさんあり、私は簡単な分布図をつくっていました。宮本常一著「私の日本地図」などから大日如来石仏は牛の守護仏だと知り、この地域も牛守(どしま)稼業の人が多く同じ信州系統の信仰があるのではないかと思っていました。後日、大護先生からのお便りで「大日から馬頭にいつ頃どのように変わってくるかを見ること」によって、牛より馬への切りかえの時期がわかる」とのご教示をいただいたことがその後二十年近く続いている大日、馬頭、道祖神など街道の石仏こだわる私のエネルギーとなっているのではないかと思っています。一九九六、二、二二



図2 『佛像圖彙』より



写真2 立山町金剛新の青面金剛



図1 『佛像圖彙』より

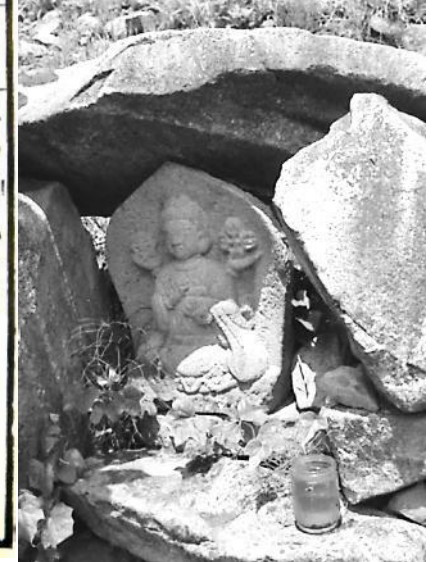
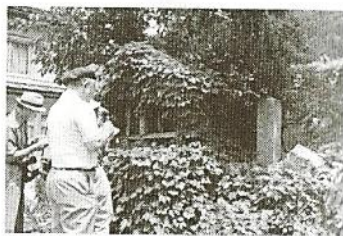


写真1 東猪谷の三寶荒神(小島荒神)



写真②



写真①



写真③

写真4 『日本の石仏』No. 78 掲載写真

# 日本の石仏 1996 No.78 夏

創立20周年記念号

記念号編 20周年号編まで  
記念号編 秘蔵石佛  
編集 日本石仏協会  
発行 日本石仏協会  
印刷 日本石仏協会  
発行所 日本石仏協会  
〒910-0001 福井県福井市  
日本石仏協会  
〒910-0001 福井県福井市



編集発行 日本石仏協会 発行所 福井県福井市

写真3 『日本の石仏』No. 78 表紙

# 朝日町境西墓地の石仏

川端典子（撮影 感想）

## 写真1 二〇一三年撮影旧景

まずこれが二〇一三年に撮影したものです。境西墓地の中央通路に面してコンクリートブロックで出来た囲いがありました。中には砂岩製の石仏が安置されており、展示場のようなでした。石仏は風化が進み、ヒビが入ったものがほとんどでした。

## 写真2 全景 二〇一五年七月三十一日撮影

現在の境西墓地の様子。前年にコンクリートの覆いがとられ、石仏が墓地の一角に引き出されました。が、雨ざらしの状態のため破損が心配され、地区の方の配慮で屋根がかかりました。

## 写真3 青面金剛 二〇一五年七月三十一日撮影

立体的な青面金剛像は、引き出された後の風化が心配です。かなり補修され、頭髮部分などは削られています。

## 写真4 青面金剛背面 二〇一五年七月三十一日撮影

背面からの崩れが目立ちました。

## 写真5 地藏菩薩 二〇一五年七月三十一日撮影

もろい砂岩なので、光背は崩れる一方です。

## 写真6 准胝観音 二〇一五年七月三十一日撮影

准胝観音は補修がかなり入っています。



写真5 地藏菩薩



写真3 青面金剛



写真1 2013年撮影旧景



写真6 准胝観音



写真4 青面金剛の背面



写真2 2015年撮影全景

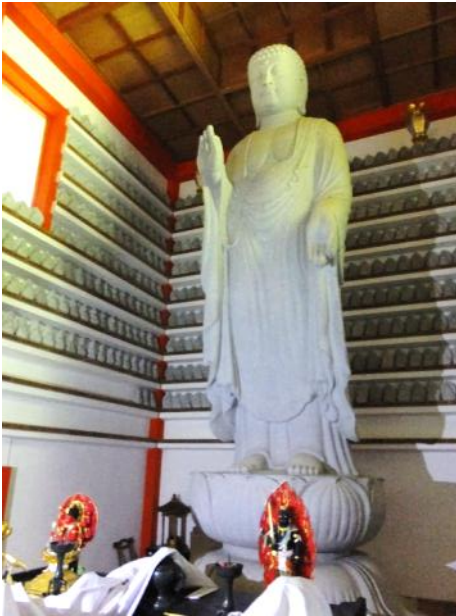
## 白山天真院の石仏

滝本 やすし

石川県白山市(旧吉野谷村)中宮の白山天真院は、金沢市旭町の円浄宗義賢院の青雲和尚のもとで修行した空生和尚によって昭和四十八年に創建された。金沢市野町の高野山真言宗真長寺の「白山千体仏多宝塔奉賛会」によって運営されている。天真院では、過去、現在、未来それぞれ千体の石仏の造立が進められている。真長寺さんに鍵をお借りして、平成二十七年七月十一日に池田さん、林夫妻、私の四名で訪ねた。

中宮の集落から尾添川右岸の林道を五キロメートルほど登ったところで車道は寸断されており、その横に「天真院」と刻まれた石標が建てられている。そこで車を降りて歩くことになった。腰まで覆い茂った雑草と倒木の多い道を三百メートルほど行くと、大きな堂が見えてきた。

最初に入ったのは未来仏堂で、中央の高さ七メートル(蓮台を含む)の石造阿弥陀如来立像に驚かされる。愛知県の彫刻家石田栄一氏の作で、包み込むように後から堂が建てられた。阿弥陀如来立像の手前には、護



未来仏堂内の阿弥陀如来と千体仏



天真院の標柱

摩訶などの仏具が置かれており、その脇に綺麗に彩色された木造愛染明王と木造不動明王立像が祀られている。堂の内壁には、石造阿弥陀如来座像が六百体ほど並んでいる。金沢市の石工八田音一氏の作で、千体の未来仏の造立途中であり、製作中の二体が下の方に置かれていた。

未来仏堂を出て奥に進むと、左手に木造の鳥居が建てられており、その奥に大きな自然石が祀られている。力石(願かけ石)と称し、前面の中央が白く、

その形は払子を持つ僧の姿のように見えるという。

力石の右手に、八角形の現在仏堂が建てられている。堂の中央に三体の像が並んでいる。中央は木造観世音菩薩立像で、白山比咩大神の本地仏とされている。その右は白山比咩大神の化身とされる石造白山大権現立像、左は地主神としての石造三宝大荒神立像である。三宝大荒神は蔵王権現の像容であり、「石工が図版を取り間違えた」そうである。中央の三体を



現在仏堂内の木造観世音菩薩、白山大権現、三宝大荒神、千体仏



力石(願かけ石)

取り囲むように、千体の石仏がぎっしりと並んでいる。合掌する手に念珠が掛けられており、それぞれに「南無甘露明佛」「南無妙意佛」「南無焰明佛」等の名が刻まれている。これらも八田音一氏の作である。千体仏の下は廻廊になっており、石造薬師如来立像や石造千手観音立像が並べられ、その足元には墨で仏尊名などが書かれた小石がぎっしりと奉納されている。

現在仏堂を出て、その右手の石段を登ると岩窟があり、石造不動明王立像が祀られている。

さらに奥へ進むと、大きな石に足跡が彫られている。宗祖である弘法大師の仏足石で、左右に日月が浮彫りされている。

仏足石から石段を降りると、一つに大きく割



岩窟内の不動明王



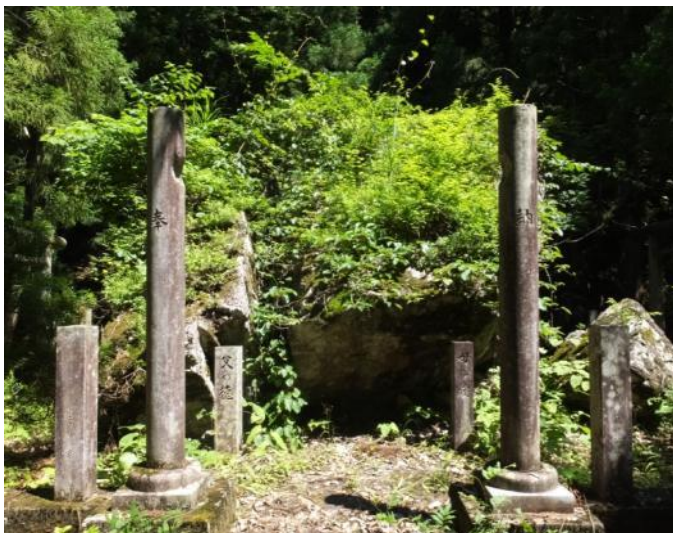
現在仏堂廻廊内の薬師如来と奉納された小石

れた巨石が見える。陰陽石（開山石）で、右の石の手前に「母の愛」、左の石の手前には「父の徳」と刻まれた標柱が建てられている。四方を石鳥居で囲んでいるが、大雪による損壊が激しい。

創建から四十年ほど経ち、三千体の石仏のうちの千六百体が出来上がっている。ようやくやく半分を過ぎたところである。倒木があるために、現地まで車で入ることができない。

毎年八月に行われている祭礼は、昨年引き続き今年も中止となった。まずは道路の整備が期待される。

白山天真院を訪ねた後は、白山市白峰地区に残る白山下山仏（明治の廃仏毀釈の際に白山の越前禅定道から降ろされた金銅仏、木造仏、石造仏等）を訪ねた。これらについては、池田さんがこの次のページで報告される。



陰陽石（開山石）



弘法大師の仏足石

# 白峰の白山下山仏

池田 紀子

石川県白山市白峰にある白山ろく民俗資料館に『板碑』と称された石仏が展示されており、そこには「市ノ瀬にあった板碑で江戸時代には越前禅定道に安置されていた。足羽郡福居法興寺(福井市)の銘があり福井から運ばれてきた」との説明がありました。

写真1 展示されている石仏

写真2 阿弥陀三尊 表面右側には「右七十一体之さく人多ちせん乃く…」左側には「法興寺」と刻まれ、下部には「寛永…」「坂にて…」「たて…」「七…」が読み取るこ  
とができます。

写真3 如意輪観音 表面右側には「金剛堂七十一体之内法興寺」左側には「寛永十四丁丑六月吉祥日」下部には「越州足羽郡福居」が刻まれています。

写真4 地藏菩薩 表面右側には「七十一体之内法興寺」左側には「寛永十四丁丑六月良娘」下部には「越州足羽郡福」が刻まれています。

写真5 薬師三尊 表面右側には「七十一体之法興寺」「奉寄進金剛堂本」左側には「寛永十四丁丑六月吉」下部には「越州足羽郡福居庄」



写真1 白山ろく民俗資料館に展示されている石仏



写真2 阿弥陀三尊

が刻まれています。

写真6 阿弥陀如来 表面右

側には「七」体之内法興寺

「別山御来迎」金剛堂

左側には「永十四丁丑六月

吉日」「日桿春岸大居士」下

部には「越州足羽郡福居」

が刻まれています。

ここにあるのは、寛永十四年に福井の法興寺によって白山の越前禅定道に奉納された七十一体の中の石仏です。(市ノ瀬・永井家所蔵)

光背に刻まれている「法興寺」は浄土宗西山禅林派寺院で、建長年間に武生において創建。現在は福井市足羽三丁目にあります。「七十一」という数字に関しては特に意味はなさそうです。

また同白峰の八坂神社境内の小堂にも下山仏である石仏が安置されています。

写真7 僧形像 表面右側には「道大和尚」下部には「越州足」が刻まれています。寛永十四年に福井の法興寺によって白山の越前禅定道に奉納



写真3 如意輪観音



写真4 地藏菩薩



写真5 薬師三尊

された七十一体の石仏のうちの一休と思われまゝ。下部に刻まれた「越州足羽郡福居庄」の銘のうち「越州足」の部分が残っていることから、この横向きの石仏は三尊仏の右脇侍と考えられます。ただ「道大和尚」とは誰のことなのかわかりません。

**写真8** 阿弥陀如来 白山の越前禅定道に奉納されていた石仏ですが、周りが削り落とされているため同じ堂内に置かれた僧形像の中尊であつたかは不明です。

**写真9** 阿弥陀如来と六地藏 表面右側には「道橋」「永禄五年」左側には「四月十五日」が刻まれています。これも白山の越前禅定道に奉納されていた石仏で、長い間鶴野家の墓地に置かれていましたが、現在は仏間で安置されています。

これらの石仏は直接白峰とは関係のない越前側の白山信仰の所産とみなされ、



写真8 阿弥陀如来



写真7 僧形像



写真6 阿弥陀如来



写真9 阿弥陀如来と六地藏

信仰のために登山する越前の人によって納められたものです。しかし、明治時代の廃仏毀釈によってこれら石仏を含めた仏像は、本来の越前ではなく加賀方面へ下ろされて守られてきたものでした。ここ白峰のこの石仏たちは越前禅定道の剃刀岩周辺にあつたものと思われ、他にもまだ手厚く奉られている石仏があるのではないのでしょうか。

勝山市教育委員会史蹟整備課で発行している「平泉寺かわら版48号」に『剃刀岩』の記事が出ていました。

#### 剃刀岩(かみそりいわ)

指尾からやせた尾根をしばらく登ると左手に直径約五メートルの巨岩が見えてくる。剃刀岩である。ここは泰澄大師が剃髪した場所と伝えられる。巨岩の根元は大きくえぐられ空洞となっている。江戸時代に書かれた『続白山紀行』には十人ばかり入れる岩屋と記される。その岩屋内には石塔や石仏が散乱しており、その大半が笏谷石であることから福井方面から運ばれたものとわかる。石仏には「寛永十四年(一六三七)」という年号や「法興寺」「越州足羽郡福居庄」「七十一体之内法興寺」などの文字が読み取れる。これらは江戸時代に越前の法興寺が七十一体の石仏を作り、白山に奉納したものの一部と考えられる。

# 上滝不動尊

文山 純子 翻刻 平井 一雄

## 1、上滝不動尊

市民大学「郷土史」に参加した後、北陸石仏の会の仲間高田美也子さんが上滝不動寺の磨崖仏を見たいとのことで案内しました。そういえば私は三回も来ているのに見たことがありません。雪が残っていたり、雨後で滑るから磨崖仏には行かないでくださいと言われたのです。また高齢者の団体に参加することが多いので仕方がなかったのです。

今日は天気良し。滝社のお堂の戸が開いたのでやつと見れると思ったのですが、中は暗くて良くわかりません。目を凝らしていると大分慣れてきて、少し輪郭がわかるようになってきました。「えー、どうなっているの」、さっぱりわかりませんでした。がやみくもに写真を撮ってきました。写真1、2、

後日、平井さんに『郷土史展望』磨崖仏特集のコピーをいただきました。「北陸石仏の会」設立以来の指導者、京田良志さんの記事より引用します。写真3

①「越中最古の地誌とされる『越中旧事記』に、「上滝不動、禅宗、大川寺、不動明王瀧の落つる岩山に彫付あるなり、其像みわけがたし、眼病に煩ふん祈願するに甚だ靈験あり」と記す。著者不明の『越中旧事記』は、文中に大宝元年より享保十八年（一七三二）まで云々とあるところからすれば、享保十八年もなくの成立と考えられる。もし上滝不動の条が後世の補筆でないならば、享保十八年ごろ既に「其像見分けがた」くなっていたわけである。」

京田先生の見た上滝不動の記事

②「上滝不動は上新川郡大山町上滝にある。江戸後期時代以来、立山登拝の平地における主要道となる道の立寄るところである。

山際に露頭する砂岩の懸崖に、上下六メートル、左右九メートルもあろう区画を掘りくぼめて、その中にすこぶる厚肉に刻み残すものである。中央に総高五メー

トルに近い不動明王坐像、その向かって右側に蓮座上小さな如来坐像、同左側に翳（さしげ）をもつ僧形座像を、それぞれ刻む。小像は一メートル数十センチである。まさしく日石寺磨崖仏中央三尊の模刻である。

元来左右に、二童子も刻まれていたかも知れない。傍らに滝があつて、その環境もそして眼病に靈験ありとすることも大岩不動に似ている。ただし三像とも水で洗われて輪郭をとどめるにすぎない。最もよく残る弥陀像は、大岩不動のそれと違い、蓮座上にあつてしかも頭光が刻まれている。」

引用が長くなりましたが私の撮った写真は輪郭がわかるのは二枚だけで、一枚は頭の上に頭光らしき形が残るのは阿弥陀如来坐像であり、もう一枚は僧形らしいと思われるが翳はわかりません。大岩不動の行基菩薩とされる像には翳を持つているのはつきりわかります。

『上滝地区の歴史と観光ガイドブック』には大岩不動は平安か鎌倉時代と言えなが上滝不動尊はおそらく元和元年（一六一五）の頃だろうと書いてあつた。

今一度、公的機関が考古学的知見を踏まえて再調査されることを希望します。

## 2、参考資料 平井一雄

旧大山町火土呂 大岩不動摸刻像について京田良志先生よりいただいたお手紙より抜粋します。昭和五十八年四月十九日着

前略 さて、拙文「日石寺磨崖仏の展開」ならびに「日本の石仏 北陸編」をお読み下さいましてありがとうございます。大岩不動写しや、道標につきましては、その後多数の方々からご教示いただき、小生自身も数例を得ました。

①大沢野町加納もおそらくそうでしょう。化仏（小仏）が多数あり、それが何であるかを是非確かめたいものです。写真4

②大山町火土呂のものは典型的な大岩写しです。写真5





写真1 富山市(旧大山町)上滝 滝社



写真4 富山市(旧大沢野町)加納 大岩不動写し



写真2 左:僧形坐像 右:如来坐像



写真5 富山市(旧大山町)火土呂 大岩不動写し

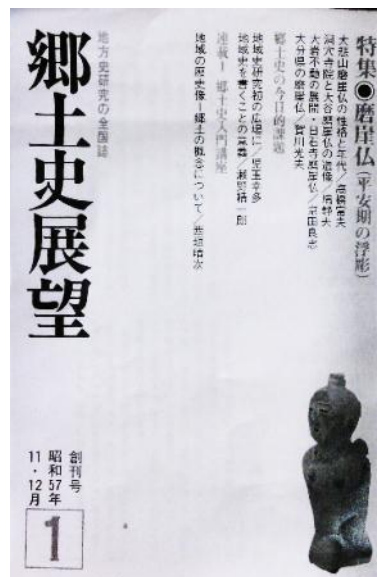


写真3 『郷土史展望』表紙

北陸石仏の会 第51回例会  
**—加賀温泉郷守護寺の石仏めぐり—**

平成27年10月18日(日)

参加費：5000円(バス・資料代)

集合場所：①大沢野文化会館……………7時00分

②JR砺波駅南口……………7時40分

③JR金沢駅西口……………8時20分

④JR粟津駅……………9時20分

申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所

申込先：〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り：平成27年10月9日(金)

案内：滝本やすし(金沢市)

**見学予定**

◎小松市粟津町 高野山真言宗大王寺／泰澄大師、西国三十三ヶ所観音、花山法皇

◎加賀市片山津温泉 高野山真言宗愛染寺／西国三十三ヶ所観音

◎加賀市山代温泉 真言宗智山派薬王院温泉寺／行基菩薩、五輪塔、四国八十八ヶ所霊場石仏

◎加賀市山中温泉薬師町 高野山真言宗医王寺／河濯明神、釈迦三尊、愛宕地藏

今回は、粟津温泉の守護寺の大王寺、片山津温泉の守護寺の愛染寺、山代温泉の守護寺の薬王院温泉寺、山中温泉の守護寺の医王寺、そしてその周辺の石仏を探訪します。

[諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。]



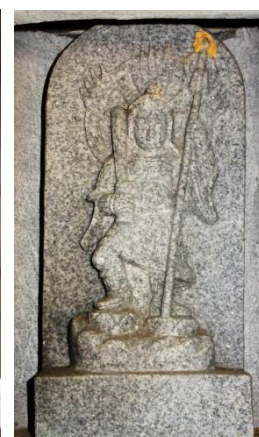
泰澄大師



西国三十三ヶ所観音



五輪塔



愛宕地藏

平成27年度の会費を未納の方は、同封の振替用紙にて納めてください。年会費は3000円です。